

令和元年度 ふるさと教育推進事業

特色あるふるさと教育事例

令和元年度 ふるさと教育推進事業

松江教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立玉湯小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習	玉湯のじまんを見つけよう！ 調べよう！伝えよう！	玉湯町の「ひと・もの・こと」（歴史・文化）と触れ合うことを通して、ふるさとへの愛着を深め、ふるさととのつながりを意識しながら、ふるさとによりよく関わっていかうとする子どもを育てる。

① 取組の概要

- 「見つけよう！」・・・玉作資料館や、温泉街、伝承館、報恩寺などに行き、歴史や文化に関する資料を見たり話を聞いたりした。また、地域の方にまが玉の作り方を教えてもらった。
- 「調べよう！」・・・自分が興味を持ったふるさとの題材について、課題を設定し調べ学習や取材をした。（テーマはまが玉の種類や色、歴史、玉造温泉、ねがい石、宍道湖の魚、しじみ、玉湯川の生き物、花仙山、めのう、功績のあった人など。）
- 「伝えよう！」・・・自分が調べたことに類似している人とグループを作り、発表する内容をまとめ、資料などを作成し保護者対象に発表会をした。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・地域の「ひと・もの・こと」を実際に見に行き、耳で聞くことを大切にしました。
- ・「ふるさと」のどんなことがじまんであり、どんな活動をしたいかを児童から出させて主体性を持たせた上で学習活動を展開していった。
- ・学校で作っている「人材リスト」を活用して情報を得たり連絡を取りやすくしたりした。
- ・地域学習教材「玉湯なんでも辞典」や、玉造温泉パンフレットや玉造資料館パンフレットなどを活用して調べ学習をした。
- ・まが玉作りなどの体験活動を取り入れ、地域の方に教えていただいた。
- ・地域の方に「出雲の風土記」の暗唱を紹介していただき、玉造温泉が昔から人々に親しまれていたことを理解した。



③ 児童・生徒に見られた変容

- ・地域の歴史や文化などについてより明確に、具体的に理解することができた。またそのことを地域の方から教わることで、ふるさとに愛着を持つことができた。
- ・地域の方と触れ合うことで、地域の歴史や文化を大切にしている人の思いや願いを知ることができた。
- ・単元のはじめや小単元のはじめに、主体的な活動を組むことでより主体的にふるさと玉湯のことを知り、発信しようとする意欲が高まった。
- ・主体的に調べ学習をしたり、工夫してまとめたりする意欲や技能が高まった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立朝酌小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習	出会い ふれあい たんけんたい② ～シジミをとる人と出会おう～	地域の産業であるシジミ漁を支える人と会う
<p>① 取組の概要</p> <p>(1) 宍道湖漁協の方と学級の保護者のシジミ漁師さんに来ていただき、地域の産業であるシジミ漁について話をうかがい、それを支える人々の思いや願いや努力を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シジミ漁の漁が行われる宍道湖について ・シジミの生態やシジミ漁の仕方 ・資源を守るための工夫 ・良い商品を届けるためのこだわり ・ライフジャケットの安全な着方 <p>(2) シジミ漁体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョレンをつかってシジミの採集 ・シジミの選別体験 ・とったシジミの試食 <p>(3) 学んだことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分一人での新聞作成 ・テーマ別（水をきれいにするヤマトシジミ、シジミの色のヒミツ・シジミ漁のルール）のポスターセッション（2年生対象） <p>② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって身近なシジミは、漁獲量日本一で、全国的にも有名な産物であること、それを支える地元漁師の方たちの優れた技能やよい商品を届けようとされる高い職業意識について、お話をうかがったり実際の仕事の様子を見たり、体験を通して知ったりすることで、地域に対する誇りと愛着をもたせる。 ・学校の近くにある船着き場や集荷場の見学・観察することで地域の特色を知るとともに、子どもたちに対する地域の方たちの厚意や健全な成長への期待を感じ取らせる。 <p>③ 児童・生徒に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い品物を届けるために厳密な選別作業をしておられることを知り、生産者が信頼できる商品を届けることで消費者との信頼関係を築いていることが分かった。シジミ漁体験から図書等を使った学習へと広がり、それらの中で得た驚きや感動が、学習内容を2年生に伝えたいという思いにつながった。 ・この学習を通して、ふるさとのかけがえのない自然である宍道湖への思いが深まった。さらに、ハゼ釣り遠足をおこなったり図画工作の題材としたりすることで、ふるさとの大切な自然を守るために、ごみ拾いをしたり、ごみのポイ捨てをしったりしないなど、意識や行動の変容が見られた。 			



特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立内中原小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習	堀川再発見プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ○堀川の生き物調査を通じて、堀川の環境の現状について知る。 ○将来の堀川の環境保全について自分たちにできることを考える。 ○環境保全について今できることを提案し、発表する。

① 取組の概要

- ・堀川の水質環境、生態系について現状を知る。（堀川遊覧、水質検査、フィールドワーク）
- ・専門家の人から話を聞き、課題を設定し、本で調べる、調査する。
- ・堀川にかかわる施設や環境を見学に行く。
- ・堀川で魚釣りなど生き物を調査する。
- ・宍道湖自然館ゴビウスの職員の方に堀川の生き物についての話を聞く。
- ・調べてわかったこと、体験したことをまとめる。
- ・堀川の環境を守るために自分たちが今できそうなことを考える。
- ・提案発表のための資料をつくる。
- ・発表練習。
- ・クラスでプレゼン。
- ・振り返り。



〈 ゴビウスの職員さんのお話 〉

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・視点を明確にした堀川への見学の機会を多くもつことで、自分の五感をいかした体験や調査を通じて知れた事実や思い、考え、課題等を大事にした学習展開を心がけた。
- ・城西地区にとって、堀川は昔から身近な場所であり人々の生活と深いかわりがある。自分たちが住んでいる地域にこのような場所があることを伝え、興味や関心を高めこの学習をとおして、堀川の価値に改めて気づき、ふるさと城西に誇りや愛着をもつよう指導した。
- ・堀川を取り巻く環境、自然を生かした生活、遊びについて公民館と連携し、地域人材を活用して、話を聞く活動や体験活動の機会を多くもった。



〈 堀川生き物調査 〉

③ 児童・生徒に見られた変容

- ・堀川の見学や体験、学習したことをもとに、自分の課題を調べる学習を計画したが、子どもたちの意欲・関心は高まり、主体的に学習が進められた。堀川をこれからも大切にしていこうとする思いの伝わる感想が多く見られた。
- ・五感をいかす堀川の体験的な見学・調査を通して、平素何気なく見ている堀川について興味・関心をもつ児童が増えた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立湖北中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	総合的な学習	松江の魅力を大阪でPRしよう	大阪でのPR活動を通して、地域の一人として何が出来るか、意欲的に考えようとする力を育てる。

① 取組の概要

- 1年時の松江探検で書いた企画書を元に、「地域の人々の思いや地域の課題に対して自分たちは何が出来るかについて考える。
- ・ 松江の良さを県外でPRし、松江と都市部の違いを知るとともに、松江を活性化する方法を模索する。
- 西日本の中心地である大阪で、松江の魅力をPRするためにはどのようにしたらよいか考える。
- 住みよい松江にするためにどうすればよいか手立てを考える。
- ・ 松江の観光スポット、文化などが書かれたリーフレットを配る。
- ・ 大阪で松江の特産物を販売し、試食などで「松江の味、文化」を体験してもらう。
- ・ 販売する食物の食べ方を紹介する。
- ・ 大阪の良さについてインタビューをし、松江を活性化するヒントを得る。
- 松江の魅力をPRするのに適した特産品について考える。
(食文化、希少性、旬、衛生面)
- 特産物や食文化、松江の歴史など松江の魅力をPRしながら販売活動をする。
- 大阪の良さ、自慢できる所などをインタビューする。
- 松江の強み、課題解決のアイデアを思考ツールを用いて班員の意見をまとめ、発表する。



② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・ 1年生の時に地元の職場を訪問して、地域の願いや実情を直に聞いた。それをもとに課題の設定を行った。地域の課題を解決するために自分にできることについてそれぞれ考えた。
- ・ 大阪で、ふるさと松江の文化や特産物を紹介した。お茶やしじみ汁の試飲を行い、ふるさとの特産物を販売した。食べ方の紹介や文化、観光スポット、ふるさとの有名人などをパンフレットにまとめ、大阪で紹介した。
- ・ 大阪の人に、松江について、大阪の魅力についてインタビューを行った。それをもとに松江の魅力について分析し、まとめた。

③ 児童・生徒に見られた変容

- ・ ふるさとの特産物や、その特徴を調べることで、ふるさとの魅力を再発見し、ふるさとに親しみや誇りを感じるようになった。
- ・ 大阪の人にインタビューすることで、大阪の魅力を知り、そのことでふるさと松江の良さに気付くようになった。
- ・ 体験やインタビューをふまえて得た情報を思考ツールでまとめ、松江の暮らしやすさや、魅力に気づいた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	松江市立第二中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習	松江の魅力化プロジェクト	ふるさとの魅力や良さ、課題を調べることで、地域に対する理解や愛情を深める。

① 取組の概要

- ・オリエンテーションで総合的な学習の時間のねらいと探究課題について知る。
- ・探究課題にせまるための視点を決める。
- ・視点別に調査項目と調査方法を決定する。
- ・インタビューやアポイントメント方法について知る。
- ・図書館やパソコン室での調べ学習、インタビュー活動等で情報を収集する。
- ・集めた情報をもとに、他の視点のグループと意見交流をする。
- ・多角的な視点から松江の良さや課題について分析する。
- ・自分たちの考えを伝えるために、紙版パワーポイント（通称：紙パワポ）を作成する。
- ・紙パワポを使って、他クラスの人に自分たちの思いや考えを伝える。（発表会）

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・グループごとに視点をもって、松江の良さや課題について情報収集をする。多様な考えを知るために、クラスの内グループの人や他クラスの同じ視点の人と情報交換をする。
- ・出前授業やインタビュー活動を通して、「ひと」と関わる場面を設定する。
- ・松江の良さや課題を踏まえて、松江をもっと住みたいまちにするにはどうすればいいか、グループの考えをまとめる。

③ 児童・生徒に見られた変容

活動のまとめとして、視点ごとにグループで紙パワポを作成した。紙パワポとは、紙版のパワーポイントのことで、画用紙に発表内容をまとめて、紙芝居形式で発表をする。キーワードや図、グラフ等で自分たちが伝えたいことをまとめた。活動の前の松江に対する生徒のイメージは、「宍道湖」「松江城」「しじみ」「和菓子」「自然が多い」「高齢者多い」など、短編的なものが多かった。しかし、発表会後に書いたレポートには、松江の良さや課題について文章でしっかりとまとめることができていた。生徒の地域に対する理解や愛情を深めることができた実感した。



特色あるふるさと教育事例

学校名	安来市立荒島小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間 社会科	「梨づくりを学ぼう」 「農家の仕事」	地域の特産品である梨の栽培を体験することを通して、地域のひと・もの・ことに愛着を深める。

①取組の概要

- 1) 梨栽培の体験（4月；花粉付け 5・6月；実の袋かけ 9月；収穫）
- 2) 選果場見学（安来市の梨の生産や流通について学ぶ）
- 3) 学習発表会（学んだことを学習劇の一部にして発表する）
- 4) ポスターセッション（調べてまとめて発表する）
- 5) 栽培でお世話になった方への感謝会（感謝の気持ちを伝える会を開く）



②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 「体験活動→情報の共有化→表現活動」という単元構成により、実感を伴った理解を促す。

③児童・生徒に見られた変容

- 農家での聞き取り学習の経験を通して、メモをとったりそれをもとに文章にまとめたりする力がついた。また、体験したことをもとに、本等で調べたことも加味して、ポスターや新聞等にまとめることができた。
- 関わってくださった方への感謝の気持ちをもって、意欲的に学習発表会で表現したり、感謝の気持ちを伝える会を積極的に開いたりすることができた。
- 地域の方にお世話になることで、地域のよさ（ひと・もの・こと）を知ることができた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	安来市立山佐小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5・6	国語科	町の幸福論	自分たちが住んでいる地域に関心を持ち、調べ学習やアンケートなどをおして地域の実態を把握するとともに、地域の暮らしや未来について考えたり提案したりする。

①取組の概要

【国語科の教材文の学習】

本学習は、国語の「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」という単元にふるさと教育の視点をあてて取り組んだ活動である。まず、教科書の写真や文章から「町の未来について考えてプレゼンテーションをする」という学習課題を確かめた。そして教材を学習しながら文章の構成を理解したり、図表などの資料の用いられ方やその効果、自分の考えのまとめ方や表現の仕方等について学んだりして実際のプレゼンテーションへとつながる活動へと発展させていった。

【チームに分かれての活動】

山佐小学校区は上山佐地区と奥田原地区の2地区から構成されている。5・6年生7名は上山佐地区児童3名、奥田原地区児童4名から構成されており、地区ごとにチームを作って、次のように活動を進めていった。

上山佐チーム	奥田原チーム
①自分たちの住む地域の現状・問題を考える（地域の現在）	
②どうしたら自分たちの地域がよくなるか考える。（地域の未来）	
③参考にしたい他地域の事例を調べる（調査・研究）	
◆広瀬町比田 えーひだカンパニー	◆邑智郡美郷町 美郷イノベーション
④アンケートや聞き取り調査の実施	
○新聞折込によるアンケート用紙の配布と回収・分析 ○地域の自主組織（やまさクラブ）の方への取材	○交流センターが実施したアンケートの結果を分析 ○地域に一軒だけあるお店（商店）の方へ取材
⑤プレゼンテーションに向けての準備（パソコンを使つての資料作り）	

【授業公開日を利用した発表】

授業公開日にチームごとにプレゼンテーションを行った。全校児童、保護者、地域のみなさんに向けて、自分たちの学習の様子やその結果分かったこと、さらには地域のみなさんに向けての提案を発表することができた。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 自分たちが住んでいる地域と似ている課題をもつ地域の事例を調べることで、チームごとの提言を考える際のヒントとなった。
- 発表の場を授業公開日に設けたことで、保護者をはじめ、取材をさせていただいた方々、地域の方々、交流センターの職員の皆さん等、大勢の方に向けて発表することができた。

③児童・生徒に見られた変容

自分が住んでいる地域について良い点や課題について友だちと話し合ったり取材活動を行ったりすることで、地域との結びつきの強さを感じ、地域の一員としての意識がより高まった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	安来市立第三中学校		
学年	教科等	題材名	ふるさと教育の視点
1	技術・家庭科 (家庭分野)	地域の食材を生かした調理 よりよい食生活を目指して ～ふるさと調理～	地域の食材を用いた調理を通して、 そのよさや地産地消への理解を深める。

① 取組の概要

1年生技術・家庭科（家庭分野）における「調理と食文化」のまとめの題材として位置づけており、地域の食材を用いた調理を通して、そのよさや和食の調理、地産地消への理解を深める学習である。本校では、市内和食料理店の方を地域講師として招き、10年以上この取組を継続して行っている。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

新学習指導要領における新設の内容を取り入れるとともに、地域の食材のよさを感じられるような献立（調理題材）を地域講師と一緒に考えて実習を行った。地元の農家の方が育てられた旬の野菜そのもののおいしさを味わえるという観点と、新設の内容「蒸す」という調理方法を組み合わせた「野菜の簡単蒸し」がその一例である。また、試食後に地域講師による講義「食と健康の関わり」を行うという流れを組むことで、実感を伴い理解を深めることができるよう工夫した。

③ 生徒に見られた変容

ほぼ全てが安来産の食材で作られた料理を目の当たりにして、「安来産の食材だけでこんな料理が作れるんだ」という驚きや素晴らしさを感じたようであった。地域にある食材の豊かさやおいしさとともに、地域の農業を支える生産者の方の思いも知ることができて、地域の食材への関心や理解を深めることができた。今後は、食生活にできる限り地産地消を取り入れるとともに、「食と健康の関わり」について考え、実践していこうとする意欲が高まった。



令和元年度 ふるさと教育推進事業

出雲教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	出雲市立 檜山小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間	檜山の食 応援プロジェクト	作業体験や調査活動を通して、地域の食やそれに携わる人の思いや願いを知り、課題の解決のために自分にできることをしようとする。

① 取組の概要

- 1) 柿の栽培作業について教わり、体験する。(年間を通して)
- 2) 作業の中から生まれた思いをもとに調査活動をする。(好きな果物アンケート)
- 3) 柿の良さについて調べたり、栽培作業についてまとめたりし、学習発表会で伝える。
- 4) 体験から感じた課題や資料から分かる課題等の解決、また、柿や柿作りの魅力について伝えるためのテレビ番組を作り、発信する。

② ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- 1) 児童の思いでつながる単元構成にする
栽培作業体験を軸に、児童の思いや願いが次の活動につながっていくようにした。また、栽培作業も教師が勧めるわけではなく、「〇〇さんを手伝いたい」という児童の思いをきっかけにした。
- 2) 人から学ぶことを大事にする
柿作り30年のベテラン柿農家さんや、新規就農者の柿農家さん平田CATVの方など、協力いただく方にこの学習の意義や願いを伝え、複数回にわたり協力いただいた。
- 3) ゴールを設定する
ある程度活動が進んだ段階で、どのような手段で誰に何を伝えたいか話し合い、自分たちの決めたゴールを意識しながら活動するようにした。



③ 児童・生徒に見られた変容

- 1) 体験活動を通して、柿作りに真摯に取り組む柿農家さんの思いを知り、働くことの意義を感じていた様子が見られた。
- 2) 調査活動を通して、柿の人気を高めたいという思いをもち、魅力を調べたり、柿農家さんの努力を伝えたりするなど、主体的に活動する姿が見られた。
- 3) 学習発表会やTV番組を自分たちで計画し、作りあげたことでまとめる力や表現する力を伸ばし、大きな達成感を味わうことができた。
- 4) 柿や作り手への思いを一層強くし、ふるさとの誇りを守り続けるために、自分たちはどうしたらよいかと考えるようになった。また柿のみでなく、地元で作られる他の農作物や作り手、さらには日本の農業への関心も高まった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	出雲市立西野小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	平和学習～斐川の戦争時代～	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内には、飛行場跡地、防空壕、弾薬壱倉庫跡など戦争遺跡が残っている。そこで校区のお年寄りから戦争時代の子どもたちの生活の様子（遊び、学校、食べ物等）を聞き、戦争は身近に起こっていて、一人一人の人生に影響を及ぼす悲惨なことだと気づき、改めて平和な世界を築いていこうとする心情を育てる。 ・世代の違う地域の方からのお話を聞き、交流を深める。

① 取組の概要

- 1) 1 学期に行った平和学習を受け、斐川町での戦争時代の様子をお年寄りからお話を聞く。
- 2) 聞いたことや感じたことを学年で共有し、学習発表会を通して地域に発信する。

② ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) ワークショップ形式をとり、複数の方のお話が聞けるようにする。
町内のよさを「ひと」を通して実感的にとらえることができるようにするとともに、それぞれの「ひと」の思いや願いにふれることを大切にする。
- 2) 戦時中の様子だけでなく、その時代に生活していた人の思いも伝えることができるよう学習発表会での台本などを子どもに考えさせる。

③ 児童・生徒に見られた変容

戦争は昔、広島や東京など都市部で起こり、地方には影響がないと考えていた子もいたが、新川飛行場跡地が戦争のために作られたこと、話に来てくださった方々が実際に草取りなどの手伝いをしておられたことを知り、戦争は身近に存在しており、多くの人に影響を与えていたことに気付いた。もし戦争が長引いていたら身内にも多くの犠牲者が出ていたことを想像させることができ、改めて平和の尊さを感じるようになった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	出雲市立北陽小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6	総合的な学習の時間	6年2組地域活性化プロジェクト ～地域のおいしいもの広め隊～	北陽地区（鳶巣・川跡）のもつ「ふるさとのよさ」を地区内外の人に発信するために、ふるさとの「ひと・もの・こと」に積極的にかかわろうとする。

①取組の概要

- 1) 鳶巣と川跡のコミュニティセンター長から地域の課題・夢・目標について聞く。
- 2) 国語科の「町の幸福論」の単元を活用し、コミュニティのセンター長・チーフマネージャーに、自分たちが考えた地域活性化案についてプレゼンテーションをする。
- 3) 鳶巣コミュニティセンターが取り組んでいる「特産品開発」の中にある「大豆（枝豆）」を取り上げて自分達で栽培する。パッケージも作成して、地域の産直市（とびす市）で販売する。（1学期）
- 4) 鳶巣コミュニティセンターで「特産品開発」として栽培された「ブルーベリー」で作ったブルーベリージャムのラベルを作り、鳶巣の秋祭りで販売する。（2学期）
- 5) 保護者や、お世話になった方を招待し、1年間の活動報告をする。（3学期）

② ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

総合的な学習の時間の授業の様々な場面で、実社会（地域）とのつながりの中で学習を進めていくことに努めた。

1) 「課題設定」での実社会とのつながり

自分たちの住む地域の課題について話を聞くことで、必要感のある活動にする。地域の農家の方やJAの方に協力してもらうことで、地域との関係を強めていく。地域課題と意図的に関わらせることで、ふるさとへの貢献意欲を育む。



2) 「情報収集」での実社会とのつながり

「とびす市」に来られるお客さんの情報や、「とびす市」を開いている方の思いなどの情報を集めることにより、相手意識を明確にした活動ができるようにする。取材活動や実体験を通して情報収集を行うことにより、根拠を明確にした話し合いができるようにする。



3) 「整理・分析」での実社会とのつながり

情報収集で得た情報をもとに、活動の指針を決めたり、見直しをしたりする。2学期には地域に住むデザイナーの方にアドバイスをもらい、自分たちが地域に伝えたいことを分析し相手意識・目的意識を高められるようにした。



4) 「まとめ・表現」での実社会とのつながり

販売活動などを通して、地域の人たちに学習の成果を紹介したり交流したりすることにより、客観的に自分たちの活動を評価してもらい、地域社会の一員としての自覚を持てるようにする。

③ 児童・生徒に見られた変容

- 1) 多くの地域の方の支援により様々な体験活動や調べ学習を進めることができたり、地域の「ひと・もの・こと」の姿を目の当たりにしたことでふるさとへの愛着と貢献意欲を高めることができた。
- 2) 意識的に「ひと」とかかわったことで、地域の一員としての自覚とコミュニケーション力が向上した。
- 3) さまざまな地域の材（ひと・もの・こと）に触れることを通して、自分たちの伝えたいふるさとのよさについて、主体的・積極的に調べたり、まとめたりしようとする姿が見られた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	出雲市立佐田中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	佐田中緑の少年団活動	学校林の間伐作業やベンチづくりを通して、自然を愛し郷土を誇りに思う心情を育てる。

①取組の概要

1) 間伐作業

森林組合や建築組合の方々を指導者として学校林の間伐を行う。木を安全に倒すためのロープの巻き付け方から、伐採の約束事など、実際に行われている方法を指導してもらう。

2) ベンチ製作

町内の建築組合やボランティアの方々に指導してもらい、間伐した木材を利用して、ベンチ製作を行う。地域の業者によって製材・加工された木材を、工具を使用して切り、組み立てて塗装する。出来上がったベンチを、市内各施設に寄贈する。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

1) 地域との人々とのかかわり

事前学習では、県東部農林振興センターの職員に来てもらい、間伐作業の手順などとともに森林を保全することの意義や森林の役割などについて話してもらう。

出雲地区森林組合と提携し、学校林の間伐作業を行う。多数の地域ボランティアの指導や支援のもと、実習する。

佐田町建築組合、地域ボランティアの方々と提携し、間伐材を利用したベンチ製作を行う。

4つのグループに分かれて、1グループ2人の指導者により丁寧に指導してもらう。

2) 活動資金

公益社団法人国土緑化推進機構の森林ファンド助成金を得て活動を行った。

③児童・生徒に見られた変容

1) 間伐作業事前学習と実習では、森林の大切さと間伐作業の重要性、郷土に根ざした産業である林業について理解を深めることができた。

2) ベンチ製作では、より高度な加工法を体験することができた。また、でき上がった製品を地域の施設等に寄贈することで、地域を愛し、地域の発展に貢献しようとする気持ちをより高めることができた。

3) すべての活動を通して、地域のボランティアの人々との交流が深まった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	出雲市立斐川西中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	斐川講座	地域の講師の方から、ふるさとの様々な伝統文化、歴史、技術などを直接教えてもらいながら製作活動や演技を行い、郷土に対する愛着を深める。

①取組の概要

- 1) 8講座（日本文化、木材加工、絵手紙、出雲弁、一式飾り、銭太鼓、よさこい踊り、写真）の中から受講したい講座を選ぶ。
- 2) 各講座に分かれ、地域講師の指導による学習を、2日間4時間ずつ実施する。
- 3) 講座ごとにまとめをし、発表会に向けて準備を行う。
- 4) 文化祭で展示発表を行う。

②ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) 地域講師の方とのふれあいを大切に、それぞれに伝承してきた技術を生徒に直接伝えてもらう。その中で、講師の方から伝統文化を受け継いできた思いを聞く場面を設定し、自分たちが暮らすふるさとの良さを再発見できるように支援する。
- 2) 多くの保護者や地域の方に、学習した成果である作品や演技の出来栄を評価してもらうことを通して、生徒たちが伝統文化を継承する意欲を高めるとともに、ふるさとに誇りをもつことができるような発表の場を設定する。



日本文化講座〈生け花〉



木材加工講座

③生徒に見られた変容

- 1) 生徒たちの地域講師の方の話を聴く姿勢や活動に取り組む姿、挨拶の様子等から、地域講師の方への感謝の気持ちや、活動への意欲が感じられた。
- 2) 絵手紙、生け花、一式飾り、写真、木工作品では、伝統的な技術に加えて生徒一人一人の個性が反映された作品が創り上げられた。よさこい踊り、出雲弁演劇、銭太鼓演技の発表も、それぞれ生徒自身が考えて工夫した内容の発表が行われた。このことから、郷土の伝統文化を主体的に学ぶことができたと考えられる。
- 3) 生徒が記述した講座の振り返りの内容を見ると、学習した技術と地域の方が受け継いでこられた思いの両方の素晴らしさにふれることが多く、目標にせまる取組ができたと考えられる。

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立大東小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	赤川ホテルレンジャーになろう	赤川ホテルについて調べる活動を通して、地域の環境や地域の人々の思いについて考える。

① 取組の概要

(1) 発達段階をふまえた探究型カリキュラムの構想

発達段階に留意し、「ふるさと教育の各学年でのねらい」を考えた。それを基に「総合的な学習の時間と生活科のねらい」を考えた。またホテルをテーマにした環境学習単元を全学年に位置付け、6年間を通した系統的な学びにより探究的な学びの深まりを目指すこととし、各学年の「ホテルに関する学習のねらい」「探究の四過程における児童の姿」「学校全体の年間指導計画」を作成した。

(2) 探究的な学びの授業実践

赤川ホテルの学習を中心に行う4年生において、ホテルを題材とした「探究的な学びの3サイクル」を展開した(表1)。

表1 探究的な学びの3サイクル

探究的な学びのサイクル	実施時期	各サイクルの単元の「学習課題」
第1サイクル	5~7月	「ホテルってどんな生きもの？」(15時間)
第2サイクル	9~10月	「なぜ赤川にはホテルがたくさんいるの？」(16時間)
第3サイクル	10~11月	「ホテルの住める赤川を守る作戦を考えて伝えよう！」(14時間)



② ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

探究的な学びの「生み出し」と「つながり」、そして「深まり」を目指し、各探究の過程における手立てを表2のように行い、授業を実践した。

表2 各探究の過程で行った手立て

①課題の設定	○思考ツールを用いた児童の既存知の整理 ○児童にとって驚きや違和感のある情報提示⇨考えたい必要感の獲得 ○問い返しによる児童の言葉の活かし ○ゴールの表現活動の設定 ○単元の学習活動の流れの共有
②情報の収集	○課題に応じた情報収集活動の設定 ○「情報収集プランニングシート」と「計画・振り返り、次時への見通しシート」による調べ活動のPDCAサイクルの構築 ○情報収集のための図書資料や調査活動、出前講座などの選定と準備(学校司書や地域、外部の専門家と連携して)
③整理・分析	○思考ツールの活用と、ペアやグループでの話し合い活動による、「情報の収集」段階で得た情報の整理・分析活動 ○ペアやグループ間での情報交換による、自分たちの整理・分析の練り直しの場の設定
④まとめ・表現	○ゴールの表現活動の目的や相手意識、見通しの具体化(「表現活動の5W1H」の話し合い) ○まとめや表現活動の「計画シート」の作成○教師からの「伝えるコツ」や「伝えるモデル」の提示 ○グループ間での情報交換による練り直しの場の設定(アドバイスタイム) ○地域の人との思いの伝え合いの場の設定



③ 児童に見られた変容

児童においては、探究の各プロセスへの意識が高まり、学びへの意欲や姿勢の向上が見られた(表3)。合わせて、地域への肯定的な意識・態度の獲得が見られた。

表3 児童の探究的なプロセスへの意識の変化 (① 5/15⇨②7/18⇨③11/25 ; %)

設問	設問内容	1. はい	2. どちらかというとそう	3. どちらかといえばそうではない	4. いいえ
(1)	自分で調べたいことを決めて調べている。	34⇨66⇨67	38⇨31⇨33	24⇨3⇨0	3⇨0⇨0
(2)	自分で調べたいことについて、話を聞いたり本で調べたりして情報を集めることができる。	37⇨61⇨61	51⇨28⇨36	6⇨11⇨3	6⇨0⇨0
(3)	集めた情報から、自分の調べたいことに必要な情報を選んだり、仲間けしたりしている。	37⇨53⇨56	31⇨28⇨39	23⇨19⇨6	9⇨0⇨0
(4)	自分が調べたことを分かりやすく伝えることができる。	23⇨39⇨42	34⇨44⇨44	31⇨17⇨14	11⇨0⇨0

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立木次中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	「みんなが住みやすい雲南市とは？」	地域の課題を見つけ、主体的に考え、よりよく問題を解決しようとする生徒の育成

①取組の概要

- 1-①昨年度の1年生の学習の様子を知る。
 - ②雲南市について現在自分達が知っていることや考えていることを整理する。
- 2-①雲南市の現状について知る。
 - ②課題設定をする。
- 3 課題追究（軌道修正）、まとめ、発表方法決定、準備、練習をする。
- 4-①学級報告会を経て、全体発表会に向けて修正と練習、想定問答をする。
 - ②全体発表会と学習の振り返りをする。



②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

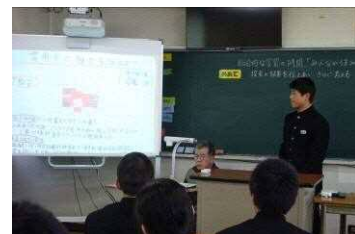
- ・ 1-①②でめあてや学習計画を明確にし、昨年度の様子などを視覚的に伝えることで意欲をもたせることと、雲南市の現在の姿を明らかにするために、生徒なりの自由な発想を大切にKJ法等を用いて考えを整理していったこと。
- ・ 2-①では地域自主組織の代表者を招いて、雲南市の現状・実態を生徒にも分かりやすく説明してもらったこと。
- ・ 2-②では一人一人の考えを大切にしながらも、ある程度の見通しをもたせるように指導者が助言したこと。
- ・ 3では学校図書館資料等を準備してできるだけ生徒の力で進められるようにして、助言等は最低限にとどめるようにしたこと。
- ・ 4では相手意識を大切に、最もふさわしい表現手段を各自で決定させるようにしたことと、探究結果の発表にとどまらず発信・提言にまで高められるように助言したこと。



③児童・生徒に見られた変容

振り返りには次のような記述が見られた。（抜粋）

- ・ 斐伊のことならけっこう知っていると思っていたけれど、新たに分かったことがたくさんありました。（略）でも私達若い人ができることをすることで雲南市は変われます。
- ・ 雲南市民として、雲南市の観光地や良いところ、魅力などを市外や県外の人達にもっと紹介したり、自分の自治会が行っているイベントなどに積極的に参加したりして、流入人口が少しでも増えたらいいなと思いました。
- ・ これからの雲南市にとって大切なことは（略）誰もがこの雲南市の魅力を知った上で、関心を持ち続けることが大切ではないかと、今まで調べてきたり発表を聞いたりして思いました。



特色あるふるさと教育事例

学校名	奥出雲町立亀嵩小学校	
学年	教科等	単元名
5・6	国語科 総合的な学習の時間	亀嵩の幸福論
ふるさと教育の視点	地域に貢献しようとする意欲の喚起 地域を支える次世代の育成	

①取組の概要

- ・国語科の学習「町の幸福論」の発展的な活動として、「亀嵩の幸福論」について考えた。
- ・亀嵩公民館を中心に、地域の方に児童の考えを対話形式で伝えた。（10月）
- ・学習発表会で、自分たちのアイデアのプレゼンテーションを行った。（11月）
- ・亀嵩地区「小さな拠点づくり」の方に学校に来ていただき、再度プレゼンを行い、小グループに分かれて話し合いを行った。（12月）
- ・児童の提案を元に亀嵩地区「小さな拠点づくり」の取組が始まった。（12月）

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・国語の学習で他県の「ふるさとを活性化する」取組を調べ、まとめた。
- ・国語の授業を研究授業として、全教職員で参観、取組の詳細を把握した上で、児童に対して支援を行ったり助言を行ったりした。
- ・公民館長を中心として「小さな拠点づくり」の方との打ち合わせについては、事前は担任が行い、事後の発展的な取組については管理職が行った。

③児童・生徒に見られた変容

- ・「亀嵩をもっと活性化するにはどうしたらよいか？」との児童への問いかけには、とかく「大型店ができたらいい・・・」といったような現実的でない話題になりがちである。本校児童も同様であったが、地域の方と対話する中で、「実現できそうなこと」「今あることを活用できないか」といった視点で考えたり、話し合ったりするというような変容が見られた。
- ・学習発表会でプレゼンした自分たちのアイデアが「小さな拠点づくり」の本格的なプロジェクトにとりあげられたことで、児童はより自信をもって自分たちのアイデアを具体的なものに発展させたり、学校のキャラクター「きずなくん」をもっと校内でも活用しようという動きにつながったりした。



「亀嵩の幸福論」 1



学習発表会



「亀嵩の幸福論」 2

特色あるふるさと教育事例

学校名	奥出雲町立仁多中学校	
学年	教科等	単元名
3	総合的な学習の時間	‘おくいずもん’ の話を聞こう
ふるさと教育の視点	奥出雲町出身や現在奥出雲町周辺に勤めている方に、地元で暮らすこと（就職すること）についての魅力と課題についての理解を深める。	
<p>【取組の概要】</p> <p>○講師の方(12名)に来ていただき、地域で働くことのやりがいや意義、苦勞を理解する。</p> <p>○実際に地域で生活している方からの話の中から、地域の魅力や課題を感じることができる。</p> <p>【ふるさと教育のねらいにせまるための授業づくりのポイント（工夫）】</p> <p>○複数の講師の方の話を聞くことで、様々な思いを知るというねらいや学習の流れを確認する。</p> <p>○過去と現在の地域の様子を聞き、その中から地域にはどのような将来への強みや課題があり、自分自身が取り組んでいくべきかを考えさせる。</p> <p>○質問を考えさせることで、研修の目的を意識させる。</p> <p>【児童・生徒に見られた変容】</p> <p>○自分と奥出雲町の可能性や将来について深く考えた。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

特色あるふるさと教育事例

学校名	飯南町立来島小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5・6	総合的な学習の時間	地域医療について考える	地域医療の必要性や重要性について地域の人に聞いたり、地域に出かけたりして、これからの飯南町の地域医療について考える。

① 取組の概要

- ・飯南病院の見学に出かけ、質問したり、胃カメラやエコー診断の体験をしたりした。
- ・飯南町役場保健福祉課の方から飯南町の医療現場の現状や、飯南町全体の取組についてお話を伺った。
- ・学習発表会では、全校児童・保護者・地域の方に飯南町の医療について発表した。

②ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・自分たちが普段お世話になっている身近な飯南病院について学んだ。
- ・見学前には、飯南町の医療について班ごとに課題を出し合い、見つけた課題をもとに見学の際に質問を行った。
- ・見学後には、飯南町の医療が抱える課題について、飯南病院がどのような取組を行っているのかまとめた。その際、医療機器などの設備だけではなく、飯南病院で働く方の思いについても考えるようにした。

② 児童・生徒に見られた変容

- ・特に意識することなくお世話になっている飯南町の医療関係の仕事についてしっかり考え、自分の考えを持つ時間となった。飯南病院のことだけでなく、福祉に携わる方についても学びを広がることができた。
- ・飯南町の医療や福祉に携わる人がどのような想いで仕事をしておられるのかを知ることによって、利用するときの感謝の思いが深まったり、接したことがある方に対して親しみを感じたりすることができた。
- ・飯南町の将来の姿について知ることによって、「自分にできることは何か」について考え、将来飯南町の医療に携わりたいという想いを持つ児童もいた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	飯南町立頓原中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3年	総合的な学習の時間	地域に貢献する「個人研究」	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題を見つけて、主体的・創造的に課題追究をすること 地域社会に参画し、貢献しようとする態度を育てること

①取組の概要

飯南町活性化マイプロジェクトというテーマで、興味・関心のある地域課題について、生徒一人一人が地域の事業所や関係者の方から講話を聴いたり、取材等の調査活動を行ったりした。課題追究したことをまとめ、文化祭や授業公開日の機会を活用して提言発表することで、地域に貢献しようとする態度を育てるものである。

②ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・各自が明確な課題意識を持つために、ガイダンスの一環として地域の方から話を聞き、質問する時間を確保した。
- ・主体的に課題を解決する態度を育成するために、リーフレットやホームページで調べるだけでなく、事業所や地域の方への聞き取りを中心とした調査活動を行った。
- ・文化祭での展示発表や授業公開日での提言発表の機会に、参観者の方から発表に対する感想やアドバイスを求め、それをふり返りに活用し、学びの質を高める工夫を行った。
- ・個人研究の見通しを持たせる必要から、企画書の作成時間の確保と内容の工夫を行った。
- ・公民館等と連携し、提言内容を実践に結び付ける活動として、ボランティア活動やパンフレットの配布等の実践活動を行った。

③児童・生徒に見られた変容

- ・教科との関連を図ったことや発表機会の充実により、ふるさと飯南町に誇りを持ち、地域社会に参画し、貢献しようとする態度が高まったことが、学校評価アンケート結果からうかがえる。
- ・飯南町で育てたい資質・能力である主体性・課題発見力・発信力が着実に向上していることが、校内職員研修での多くの意見としてあがった。

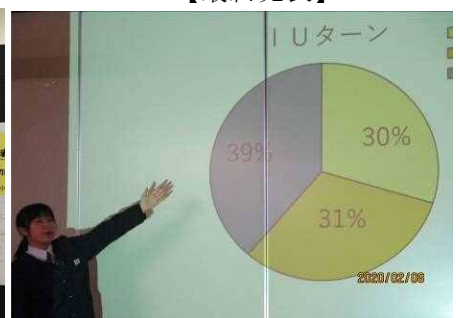
【中間発表】



【展示発表】



【最終発表】



令和元年度 ふるさと教育推進事業

浜田教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	浜田市立原井小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	「浜田の海と共に生きる」	地域の自然（海）に親しむ

1 取組の概要

本学習では、「浜田の人と浜田の海にすむ生き物の生命の安全を守りたい」という目標を掲げて、学習活動を計画した。

1学期は、「浜田の海で安全に遊んでほしい」という思いのもと、浜田の海に生息する海の生き物について調べ、ポスターにまとめた。調べる際に、アクアスの職員の方に学校へ来てもらい、図鑑で調べて分からなかった疑問に答えてもらったり、探究活動を深めるためのアドバイスをもらったりした。

2、3学期は、「浜田の人と浜田の海にすむ生き物の生命の安全を守りたい」という思いのもと、浜田の海のごみ問題について紹介したいと考えた。そこで、アクアスの職員さんをはじめとするNPO法人「いわみっこ」の方に協力していただきながら、専門的な知見から児童の探究活動を支えて、海の環境についての理解が深まった。また、浜田の海の魅力を知りたい、浜田の環境問題についてもっと知りたいという気持ちも高まった。そこで、「浜田の海の魅力を浜田の海へ行く人に知ってもらい、きれいな海を保ってほしい」と考え、「浜田の海で生活する会」の方にも協力してもらいながら、校区内で採れた海水や“かじめ”を使って藻塩づくりを体験したり、浜田の海のレジャーであるカヌー体験を行ったりして、浜田の海の魅力に触れた。そこでの探究活動をもとに、地域の人たちに知ってもらうためのプレゼンテーションを作り、表現した。



2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

「浜田の海」という大きなテーマから、子どもたちが連想するものをウェビングマップに表し、そこから児童が自分たちで話し合っって課題を設定していった。そして、自分たちで考えた課題をもとに、「浜田の人と浜田の海にすむ生き物の生命の安全を守りたい」という目標を掲げた。

3 児童・生徒に見られた変容

初めは、海は海水浴や釣り等のレジャーの場としてとらえていた児童も、学習を進めるうちに生物の宝庫としての見方ができたり、環境問題とも関連付けて考えたりするようになった。また、多くの大人の人にかかわっていただいたことでコミュニケーションを自分からとろうとする姿が見られた。そして、自分たちの海を何とかして守ろうとする意識も高まった。

特色あるふるさと教育事例

学校名	浜田市立旭小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6	総合的な学習の時間	旭の未来を考えよう	小学校6年間で学習したふるさとの良さを、地域の人々のつながりに視点をあてることを通して改めて見直し、ふるさと旭町に誇りをもつ児童を育てる。

1 取組の概要

- 平和学習と関連し、地域の方の戦争体験を聞くことで、過去を通して現在のふるさとについて考えた。
- 興味・関心に基づいたグループを編成し、旭町の現状や他地域の取組を調べることを通して、未来の旭町についての提案をまとめた。
- 5年生や町内各公民館職員、市職員、学校評議員、民生児童委員、保護者に提案発表を聞いていただいた。



2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 過去と現在を区分して学習することで、現在の課題を考えたり、未来のふるさを想像したりしやすくした。
- 地域のことと他地域のことを関連して調べることで、未来のふるさとについて、より深く考えられるようにした。

3 児童・生徒に見られた変容

- ふるさとの未来について考えるときに、もっと旭町のことについて知りたいと思って積極的に調べる様子が見られた。
- 地域の方の思いを聞くことで、旭町の未来について本気で考える姿が見られた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	浜田市立第三中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	総合	企業説明会 (ジョブカフェ in さんちゅう)	本校のキャリア教育の一環として地元企業や職業についての理解を深め、ふるさとで働くことの意義や良さを知る。

1 取組の概要

- ・説明をしていただく地元企業について、事前にHPやパンフレットなどで調べる。
- ・企業への質問内容をグループで考え、演習を行う。
- ・地元企業9社の担当の方から、グループごとに説明を聞き、考えた質問をすることによってふるさとで働くことの良さや意義を知り、今後の進路選択の一助とする。
- ・振り返り活動を重視し、どのようなことを学んだかを確認する。

2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・地元企業9社の説明を聞くことによって、友達と協力して事前の調べ学習を行い、ふるさとをあらためて見つめ直し、こらからの自分自身の生き方について、深く考えるような学習活動を行う。

3 児童・生徒に見られた変容

- ・将来就きたい仕事に実感がわからない生徒もいたが、様々な業種について聞くことができ、考えるきっかけになった。
- ・働くことの大変さを直に話を聞き、保護者の方への感謝を感じる生徒がたくさんいた。
- ・地元にもたくさん企業があり、地域のために貢献していることを知った。
- ・3年生になったら、職場体験学習で今回説明を聞いた企業に行ってみたいという生徒がたくさんいた。
- ・話を真剣に聞き、話す人のことを考えて活動できる生徒がたくさんいた。
- ・中学校卒業後の自分の進路について、真剣に考える生徒がたくさんいた。
- ・時間内に聞けなかった質問について、休憩時間を使って自主的に聞きに行く生徒の姿が見られた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	大田市立静間小学校		
学 年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	ハマナス学習	天然記念物ハマナスの学習を通じ、豊かな自然をもつふるさとへの誇りと地域貢献への意識を育てる。

①取組の概要

【◇3～6年生児童による近藤ヶ浜(ハマナス園周辺)清掃】

◇近藤ヶ浜ハマナス園にて観察活動を行った。

◇講師に名所・旧跡を守る会の方を招き、ハマナス学習を行った。

◇高橋禎子さん(他スタッフ2名)を講師に招いて、校内で自生しているハマナスの実を使ったジャムづくりを行った。

②ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

◇ふるさとへの愛着や誇りの醸成

・現地海岸にて、観察を定期的に行い、スケッチ等の記録にまとめた。

・資料による調べ学習だけでなく、ハマナスの由来や愛護活動について、講師からの話を聴き、より深く学べる機会を設けた。

・ジャムづくりを通じて、ハマナスを身近な存在に感じるとともに、護っていききたいという心情を育てた。

◇地域に貢献しようとする意欲の喚起

・清掃活動では、きれいになる海岸を見ることで地域に貢献する喜びを感じさせた。

・児童が協働し体験する場を設けることで、主体的に活動にかかわる機会を増やした。

・活動の様子を学級だよりに掲載し、啓発活動を通じ自尊感情を高めた。

・指導を受けた講師に、お礼の手紙を書き感謝の思いを伝えた。



③児童・生徒に見られた変容

◇身近な海岸ではあったが、貴重な植物が自生していることを知り驚いていた。静間町の豊かな自然を改めて知る機会となった。

◇「ハマナス」の由来等の説明を受け、昔から地域の方々が大切に守り続けていることを知り、児童も継承することの必要性を感じ取っていた。

◇地域講師とのかかわりを通して、自分たちを支えてくれるたくさんの方々への感謝の気持ちをもつことできた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	大田市立大田学校		
学 年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6年	総合的な学習	世界遺産学習で 学びのバリアフリー化をしよう ～「学び」を通じた 共生社会の実現をめざして～	世界遺産「石見銀山」を学習することと、 魅力ある「ひと」と関わることで、ふるさと と大田に対する知識を増やし誇りを持つ。

①取組の概要

○課題設定 世界遺産である石見銀山についての学習

- ・ 仲野館長（石見銀山資料館）から石見銀山についての話を聞く。
- ・ 視覚障がい者から生活の中の不便さや、観光地での不便さについてお話を聞く。
- ・ 「石見銀山ことはじめ」等をもとに、石見銀山について各自で調べ、石見銀山についての理解を深め、1分程度の各観光スポットのPR文を考える。（16か所）

○現地学習 課題追究

- ・ 自作したPR文を元に、学芸員、教師と各スポットを周り、ユニバーサルデザインの視点に立ち、再考する。
- ・ 視覚障がい者と手話通訳者から手話を学び、各観光スポットPR文の手話を練習する。
- ・ 視覚障がい者と手話通訳者、学芸員、高校生、教師と各スポットを周り、PR文に合った動画及び静止画撮影をする。
- ・ 持ち帰った動画を1分程度の動画にまとめられるよう、高校生と編成を行う。

○まとめ 石見銀山の観光スポットの1分動画を紹介する

- ・ 大田高校で16か所の動画上映会を行う。
- ・ 学習発表会にて16か所の動画の一部を発表し、保護者へ学習の成果を伝える。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

○様々な分野の専門家と連携しながら、児童とともに課題を見つけ、体験活動を通じた課題追求活動を設定し、調べたことや学んだことを生かし、まとめ、発信して、自分たちの生き方や世界遺産の継続の可能性を考えるようにする。

③児童・生徒に見られた変容

- 石見銀山遺跡を守っていききたいと思う児童が増えた。
- 動画作成を通して、誰もが等しく学びを享受するためにはどうすればよいか考えることができた。また、自分以外の誰かの視点に立って考えることの良さを味わうことができた。
- 高校生との協同学習を通して、互いに考えを出し合いものを作る楽しさを学んだ。

大田高校の生徒と一緒にフィールドワーク



特色あるふるさと教育事例

学校名	大田市立志学中学校		
学 年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全	総合的な学習の時間	志学地域について学び、考えたことを地域に発信・提案しよう。 SST（志学 最高〔再興・再考〕タイム）	自分たちが住む地域を知り、地域の方との交流を深め、地域の一員としての自覚と愛着心を育てる

①取組の概要

- ・自分たちの住む地域の地理、歴史、自然について興味・関心を持ち、地域の現状や課題について様々な角度から情報を集め、調べ、考えたこと（提案）を発表する。
- ・今年度生徒が取り組んだ個人追究活動のテーマ

学年	テーマ	学年	テーマ
1	どうすれば三瓶山は有名になるか	2	上山といえば・・・第2弾
1	わさびについて	2	志学保・小・中の歴史
1	志学に観光客を増やすために	2	志学の木を使って定住者を増やす
1	志学の温泉について	2	上山の歴史2
1	志学のそば粉を使って特産物をつくることできないか	2	志学の木の未来2
		3	志学の撮影（インスタ映え）スポット

②ふるさと教育の視点をもった授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・地域資源の積極的活用・・・志学地域のもつ様々な教育資源に対して、全校でフィールドワークを行うなど、できるだけ多く出会わせる機会をもった。
（志学フィールドワーク・どんぐりの森づくり・三瓶登山フィールドワーク・門松づくり）
- ・地域人材の活用・・・個人追究活動のテーマに関わる地域人材を探し、個人追究活動がより深まっていくようコーディネートした。
- ・実践や行動を大切にされた個人追究活動・・・実際に作品や商品を作成したり、他の人に働きかけたりするアクションの部分を大切に、生徒の学びがより深いものになるようにした。

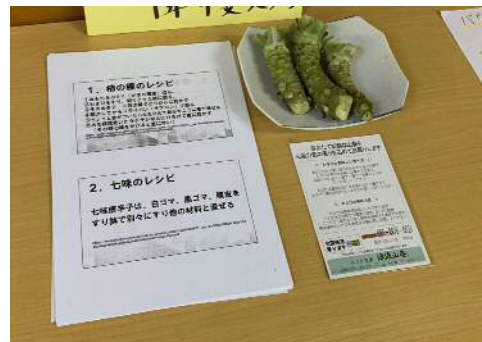
個人追究活動のアクションの具体例



③児童・生徒に見られた変容

自分たちが住む地域のよさや、課題を生徒一人一人が認識し、地域の発展についてより深く考えることができるようになった。また、自分たちができる地域への貢献について、しっかりと考え提案することで、社会参画意識が高揚した。

年度末の発表会には、保護者や地域の大人も参加し、発表に対する質問や応援するコメントがあり、協働的な学びの場になっています。



特色あるふるさと教育事例

学校名	江津市立渡津小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習の時間・社会科	お米博士になろう！～お米の良さを伝えよう～	地域の食と環境を支える米について、体験活動やインタビューを通して、その良さや大切さを知り、地域の人に伝えたいという気持ちを持つ。

① 取組の概要

米の消費量が年々低下しているという問題から課題を設定し、調べ学習を行った。調べたことを新聞にまとめ、保護者や地域の方に見てもらおうという学習を行った。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 地域の方に協力していただき、年間を通して米作り体験を行った。
- 地域の祭りで新聞を展示し、たくさんの方に取組を知ってもらうことができた。
- 新聞づくりの際は山陰中央新報社の方に来ていただき、児童にアドバイスをいただいた。

③ 児童・生徒に見られた変容

- 地域で米作りに携わる人達と関わることで、学習がより身近になり、課題を自分事として捉えられるようになった。
- 自分たちの生活がたくさんの人に支えられていることに気づくことができた。



お米博士になろう！ 田植え体験



お米博士になろう！ お米を使った起業体験プログラム（地域の祭りにて販売）

特色あるふるさと教育事例

学校名	江津市立江東中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	江津の未来を考える	ふるさとのために自分にできることを考え行動する。

① 取組の概要

- ・総合的な学習の時間のねらいが達成できるよう課題探究学習の過程（(1)課題の設定(2)情報の収集(3)整理・分析(4)まとめ・表現）を意識した取組とした。
- ・ふるさと江津の未来のために、自分たちにできることは何かを考え、発表した。
- ・課題設定のために、江津市職員を講師として招いて講話を行った。
- ・情報の収集のために、ふるさと定住財団（松江市）に出向いたり、松江市の商店の経営者にインタビューをしたりした。
- ・表現活動として、自分たちなりの提言を、文化祭のステージで発表した。発表をコンテスト形式にして、それぞれが工夫して発表できるようにした。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

「ふるさとのために自分（たち）にできることを考え行動する。」という視点にせまるために、課題探究学習のプロセスを大切に学習になるように工夫した。また、工夫した発表ができるよう、コンテスト形式を取り入れた。

③ 児童・生徒に見られた変容

活動を始める前は、ふるさと江津に対して魅力を感じていない生徒もいたが、活動を通してふるさとの「ひと・もの・こと」に触れ、ふるさとの魅力を再発見したふるさとに対して自分たちができることを考えたりできるようになった。



市職員の講話「江津ビジネスプランコンテスト」について

特色あるふるさと教育事例

学校名	川本町立川本小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	エゴマを育てよう	地域の特産物の栽培を地域の方と触れ合いながら体験活動を行うことで、地域の良さを味わう。

①取組の概要

【エゴマを育てよう】（全40時間）

川本町は三原地域を中心にエゴマ栽培が行われており、エゴマの実を使った食品、葉、エゴマ油を販売している。エゴマは川本町の特産品として子どもたちの知名度も高く、また普段の食卓や給食でも頻繁に食す機会がある。また健康食品としての認識も高く、4年生の総合的な学習の時間、生活習慣病予防教室での中心食材としても扱っている。

エゴマの栽培においては、エゴマ栽培を専門的に行っておられる柴原信行さんを講師に迎え、地域の方とかかわる楽しさと感謝の気持ちを感じながら活動を行っている。

（1学期）・エゴマの苗植え ・水やり肥料やり ・間引き

6月に自分の鉢にエゴマの苗を植える。水の調節や肥料の量等、自分で管理しながら栽培を行うことにより、責任をもって栽培ができるようにしている。水の量や、肥料については柴原講師の指導をよく守って行っている。



（2学期）・エゴマの葉を使ったスムージーづくり ・刈り取り、脱穀エゴマ油絞り

エゴマの葉も栄養満点であるが苦みがあるため、調理しておいしく食べる方法を柴原講師に指導いただき、調理活動を行う。収穫したエゴマの実を使ってエゴマ油搾りを行う。エゴマの実の量に対して少量の油しかとれないことを体験を通して学ぶことにより、エゴマ油の貴重さを理解する。また多くの作業工程から、生産者さんの日々の苦労や工夫についても学んでいく。



（3学期）・エゴマづくり学習についての発信 ・柴原さんへの感謝祭の開催

エゴマづくりの流れについて、新聞に書くことで、他学年に発信していく。これまでお世話になった柴原講師に感謝の気持ちを伝えるために感謝祭を開催する。感謝祭では、エゴマづくりの工程を双六にして、ゲームを楽しみながら学習を振り返る。またエゴマクッキーの作り方を特別支援学級の児童に教えてもらい、柴原講師に食べてもらう。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- （1）ふるさとの特産品エゴマを題材として、様々な体験活動ができるよう計画した。
- （2）柴原講師から、エゴマ栽培の苦労や工夫を子どもたちに伝えたいことを明確にして授業に臨んだ。
- （3）児童に体験させたい活動を計画的に盛り込み、豊かな体験ができるようにした。

③児童に見られた変容

- エゴマづくりを体験することで、育てることの大変さ、食卓に届くまでにいくつもの工程があることを理解することができた。
- エゴマの葉やエゴマ油のおいしさ、健康への良さを改めて知り、ふるさとの特産品をより好きになることができた。
- 柴原講師の温かさに触れ、地域の方々と触れ合う良さを体験することができた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	川本町立川本中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	ふるさと川本町のよさを再発見しよう	ふるさとの人々の思いを知り、課題を解決していこうとする。

①取組の概要

◎町の自然・歴史・文化・まちづくりに課題をもち、課題を追究し、発信する。

1. 地域で活躍されているゲストティーチャーの方の話聞き、課題を設定する。
2. 実際に現地に出向き、サポートしていただく方に支援していただきながら調査を行う。
3. 江津市にある職場を訪問し、働くことへの意識を広げ、勤労観を高める。
 - I アクアスに出向き、バックヤードでアクアスの方の仕事内容を見学する。
 - II アクアスの方の職業講話を聴く。
 - III デザインオフィス SUKIMONO に出向き、職業講話を聴く。
 - IV デザインオフィス SUKIMONO で、カウンター作り、藍染め体験など職業体験を行う。
4. 島根県の固有の領土である竹島について、関心を高める。
 - I 島根県竹島・北方領土問題教育者会議会長の曾田和彦校長（大田市立志学中学校）を本校に招き、竹島についての学習を行う。
 - II 昨夏、北方領土に行かれ、直接行き見聞きされたことや体験されたことの話聞く。（大田市立志学中学校 森脇雅志教諭）
5. 調査した内容を整理し、発表に向けて要約学習を行う。
6. 文化祭でのステージ発表を意識しクラスとしてどのような発表ができるか考える。
7. 自分やチームで調べたことをまとめ、個人新聞を制作する。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

地域の方に授業の目的やねらいなどをしっかりと理解してもらうこと

③生徒に見られた変容

- ・実際に町を歩いたり、町の方の話を知り、現在の川本の問題点に気づき、自分なりの改善点などを考えることができた。
- ・実際に作業をさせていただき製品を完成させたことで、達成感を得た。講話や作業・職場見学を通して、働くことの意義を感じることができた。
- ・小学校ころから竹島学習は行っているが、専門的な見地からのお話を聞くことにより、さらに深めることができた。また北方領土の歴史や現状を聞くことで、竹島に関する思いをさらに強くすることができた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	美郷町立大和小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5、6	総合的な学習の時間	フラワーパーク活動	地域を支えている人々の思いや願いに触れ、共に活動することを通して、故郷への愛着を高め、地域創造に参画しようとする思いを高める。
<p>① 取組の概要</p> <p>年間を通じて、地域にある「フラワーパーク」に年2回花を植え、地域の方と交流を深める活動である。取組がはじまってから今年度で11年目を迎える。年間の活動は次のとおりである。</p> <p>(春・秋) ・今年度のフラワーパークづくりのテーマと花壇のデザインを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と一緒に花の苗を植える。 <p>(夏・秋) ・草取りなどフラワーパークの保全活動。</p> <p>(冬) ・フラワーパークづくりのまとめとして、お世話になった地域の方々との交流を深める「フラワーフェスティバル」の開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動記録を制作し、町の人権のつどい等で展示。 ・5年生は、卒業式の日6年生が胸につけるコーサージュをフラワーパークの花を使い、地域の方々と一緒に作る。 			
			
<p>② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや願いを大切にし、主体的な活動となるような年度初めの導入の工夫。特に、フラワーパークに込められている地域の方の願いや長年続いている先輩たちの思い等に触れる場を大切にして、児童の意識が継続するような学習計画を立てた。 ・この活動に取り組む5、6年生時だけでなく、毎年実施している全校遠足での地域探検、低学年時のたけのこほりや栗拾い、中学年時の野菜栽培や地域の自然研究等、入学時から卒業まで計画的に地域に出かけ、地域の方と活動をし、地域の方の思いや願いに触れさせる。 			
			
<p>③ 児童・生徒に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生は、入学時から地域に出かける学習をしており、5年生後半にもフラワーパーク活動を行っていることから、年度初めの導入時には、一人ひとりがフラワーパーク活動への自分の思いを語り、「自分達が先輩や地域の方の思いを引き継ぎ、充実した活動にしていきたい。」と強い意識が見られた。 ・年2回の花壇のデザイン作りでは、子ども達が地域への思いを出し合いながら、考えたデザインをとおして自分たちのメッセージが訪れた人に伝わるよう、工夫しようとしていた。 ・学習発表会で、6年生は、フラワーパーク活動についての発表を行い、フラワーパークに込められた願いや思いを自分たちのことばで、来場者に伝えていた。 			

特色あるふるさと教育事例

学校名	美郷町立邑智中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	体育	ふるさとの自然を満喫しよう	ふるさとの自然を体感する ふるさとの講師の方とふれあう

①取組の概要

- 美郷町に流れる雄大な江の川をカヌーで下りながら、ふるさとの自然のよさを体感する。
- 江の川をカヌーで下ることで、楽しさを感じたり、困難を乗り越えたりする体験をする。
- カヌー下りの指導者とのふれあいを通し、ふるさとで働く方の思いや、ふるさとのよさを
知る。

②ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 中学校生活の各学年において、カヌー体験をそれぞれに実施し、だんだんとレベルの高い
体験活動をさせる。
- 教員では伝えきれない、また、教えきれないふるさとのよさを体感させるため、地域講師
の活用によって充実した教育活動にする。
- 体験活動の実施で終わりにするのではなく、体験活動で学んだり、感じたりしたことを
ふるさとのよさを発信する活動へとつなげていく。

③児童・生徒に見られた変容

- ふるさとの自然の雄大さや、自然にふれあう楽しさを感じた。
- ふるさとにある自然の価値について学んだ。
- ふるさとのよさを知り、ふるさとへの愛着をさらに深めた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	邑南町立矢上小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	子どもヘルパーで地域の人を笑顔にしよう	地域の一人暮らしのお年寄りの方とふれあい、地域の方とのつながりをつくる。
<p>①取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の民生委員、地区社協と協力し、独居のお年寄りの方の家を訪問し、掃除や片付けのお手伝いを行う。また、お年寄りの方に喜んでもらえるようなふれあいを考えて計画実行を年に3回実施していく。 お年寄りの方に、地域への思いを聞き、地域への愛着がもてるようにする。 <p>②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童のグループ編成を、同じ地区の児童ごとに行うことで、地域をより身近に感じ、地域を大切にしようとする心情を養うことができる。 社会科・国語科の地域の学習と合わせることで、ふれあい活動のみではなく、地域のよき伝統などについて話してもらい時間を作る。 <p>③児童・生徒に見られた変容</p> <p>訪問を3回繰り返すことで、訪問先の方への愛着がうまれるようになった。子どもたちは地域のお年寄りの方のお宅に訪問するという経験はほとんどなく、接し方やふるまい方の大切さを理解していなかった。訪問を繰り返すことにより、自分たちの思いと地域の方の思いが合わさった時の気持ちよさによって、気持ちの良い交流ができることに気づくことができた。</p> <p>子どもたちの中には、恥ずかしくて自分から声が掛けられなかった児童が3回目には身振り手振りを使って自分から話かけることができるようになってきた。</p> <p>子どもたちが得たものは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手を笑顔にするためには、まず話をして仲良くなるのが大切であることが分かった。 相手の方の思いを大切に活動することの大切さを感じていた。 地域の方がいろいろな知恵や技を持っておられることがわかった。 年配の方との関わり方がわかった。（体の事、耳の事など） 何回も活動を重ね、失敗を経験することで自分たちの活動を見つめることができた。 計画し実行することの難しさを感じていた。その中で、試行錯誤して解決策を見出すことを経験できた。 訪問先の方から元気と優しさもらった。 民生委員さんとのつながり。 			



気持ちの良い交流ができることに気づくことができた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	邑南町立羽須美中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全	総合的な学習の時間	地域と交流しよう 「次の日祭」への参加	地域の歴史や伝統文化を学ぶとともに、地域の方々と触れあうことでその思いや考えを知る。
<p>① 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統的なお祭りである「次の日祭」の歴史について、生涯学習課の方から話を聞く。 地域の方に次の日祭で使われる「傘ぼこ」「ようらく」などの作り方を教えていただきながら、一緒に作成する。 次の日祭に参加し、地域の方に協力していただきながら自分たちで作成した傘ぼこをもって練り歩く。  <p>② ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統的なお祭りの「次の日祭」や祭りの舞台となる加茂神社の歴史を学習し、地域の歴史や伝統文化についての興味・関心を高める。 傘ぼこの作成に必要なこよりや短冊を地域の方と一緒に作り、短冊をしべに取り付ける作業を教わりながら地域の方の「次の日祭」への思いを感じ取る。 地域の方の指導のもと、傘ぼこを組み立て、歴史ある地域の伝統行事に参加する意識をもたせる。 自分たちが作成した傘ぼこで「次の日祭」に参加し、地域の方と交流する。  <p>③ 児童・生徒に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいる地域の歴史や伝統文化を学び、地域の良さや大切さを知ることによって地域に関する興味・関心が高まった。 「次の日祭」に向けての準備から実際に祭りに参加しながら地域の方と交流する中で、人々の働き方を見聞きし、将来は自分たちが地域で活躍したいという意欲が高まった。 活動を通じて、公民館や地域の方々との連携を深めることができた。子どもたちだけではなく、教職員も地域の方々と関わろうとする意識・意欲が高まった。  			

令和元年度 ふるさと教育推進事業

益田教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	益田市立安田小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6	国語・総合	まちづくりについて考えよう	国語「まちの幸福論」の学習 まちづくりについての提案

①取組の概要

■益田市の「ひとづくり」の取組を学び、益田をよりよくしていくためのまちづくりについて、提案することができる。

《取組の流れ》

- (1) 「まちの幸福論」からヒントを得よう
- (2) 益田のまちづくりを考えよう
- (3) 市長や地域づくりのプロ（公民館長）に
益田市の取組や課題を教えてもらおう
- (4) 益田のまちづくりを考えよう（2回目）
- (5) 各公民館で自分たちのコミュニティデザインを伝えよう
（+ 公民館活動の連携協働）

【4つの地区で提案】

- ※次年度の中学校区
- 安田公民館
 - 北仙道公民館
 - 種公民館
 - 鎌手公民館

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 多様な「ひと」の巻き込み…益田市役所（市長、人口拡大課、社会教育課）
安田公民館、北仙道公民館、種公民館、鎌手公民館
各地区の地域自治組織等の大人
- 対話…関わる大人に子どもたちの思いをしっかりと聞いてもらい、講話ではなく、大人と子どもで対話する場を十分に設けた。
- 公民館活動との連携協働…子どもたちの教育課程内の活動を終え、その後の発展的な取組を、それぞれの公民館を核とする地域の大人の協力により実施。子どもたちの「こんなまちにしたい」という提案の実現に向けて取組を進めた。

③児童・生徒に見られた変容

- 特に、ひととの出会いによって変化した点を中心に（北仙道地区に焦点を当てて）
- 益田市長や公民館長等、仕事としてまちづくりを行っているプロの声を聞くことで、憧れを持ったり意欲を喚起されたりする姿が見られた。
- 6年生が考えた「北仙道弁当開発」について、アドバイスをもらう際に、真剣に話を聞いてもらったこと、一緒に考えたりする経験を通して、大人に対する信頼感と、自分たちもできるという自己肯定感を高めていた。
- 実際に具体的な活動に繋がることを意識したことで、自分たちのやりたいことは実現することができるという当事者意識・達成感と、いろいろなひとの協力があって物事は進むという協働の思いの双方を感じ取ることができた。
- 中学校での取組（部活動や生徒会単位による地域貢献活動）への繋がりに向けての兆しを感じられた。また、地域活動での継続的な子どもの参画に繋がっている。



子どもたちと地域の方との対話の場
～「北仙道弁当」作戦会議



「北仙道弁当」作戦会議中のプレゼン資料

特色あるふるさと教育事例

学校名	益田市立戸田小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6	総合・国語	戸田小プロジェクト	平和学習からつながる小野地区のこれからのまちづくり

①取組の概要

■平和学習のゴールとして、世界平和、日本全体の平和より、子どもたちにとって実感しやすい「身近な地域をより良くしていく」ことを焦点とし、教育課程を編成した。地域課題の解決そのものが目的ではなく、活動全体を通して、子どもたちに汎用可能な資質や能力を育むことが目的である。さらに地域がフィールドになることで、自治組織等、地域の多様な大人との出会いが生まれ、一緒に活動することで愛郷心を育むことにも繋がる。

《取組の流れ》

- (1) 平和学習～世界平和⇒平和学習からつながる小野地区のこれから
- (2) 国語・「まちの幸福論」～国語科の内容とつなぎ、地域の力とともに
- (3) 地域の大人との対話

平和な世の中となった今だからこそ考えよう、地域の課題！

- ・遊ぶところが少ない⇒神社巡りスタンプラリー、虫取り大会
- ・通学路が暗くて怖い⇒フラワープロジェクト ⇒花の種類、植え方

⇒卒業後は地域に里親さんを募集 ⇒地域の力が必要 ⇒公民館に相談

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

■多様な「ひと」の巻き込み…地域の高校生（公民館や自治組織等のサポートを得て活動しているグループ）、地域自治組織、小野公民館

■公民館活動との連携協働…○地域づくりに関わる多様な大人（高校生も）を公民館主事がコーディネートし、講話形式ではなく、子どもたちの思いをしっかりと聞いてもらい、大人と子どもで対話する場面を十分に設けることができた。

○小野公民館事業「小野を花いっぱいにしよう活動」。子どもたちの教育課程内の活動を終え、その後の発展的な取組を、公民館を核とする地域の大人の協力により実施。子どもたちの「こんなまちにしたい」という提案を実現することができた。

③児童・生徒に見られた変容

■特に、ひととの出会いによって変化した点を中心に

○実際に活動している高校生グループの声を聞くことで、憧れを持ったり意欲を喚起されたりする姿が見られた。（地域での活動に8名の6年生が全員参加）

○まちづくりについてのアドバイスをもらう際に、真剣に話を聞いてもらったり、一緒に考えたりする経験を通して、大人に対する信頼感と、自分たちもできるという自己肯定感を高めていた。

○公民館は様々なことが実現できる場なのだという思いをもつ姿が見られた。

○実際に具体的な活動に繋がることを意識したことで、自分たちのやりたいことは実現することができるという当事者意識・達成感と、いろんなひとの協力があって物事は進むという協働の思いの双方を感じ取ることができた。



総合的な学習の時間にて、地域の方への提案と対話の場



地域の大人の協力により実施した「小野を花いっぱいにしよう活動」

特色あるふるさと教育事例

学校名	益田市立横田中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合	鮎体験交流	地域の大人と一緒に川での活動を運営することを通して、自分たちのふるさとを再認識し、将来にわたってふるさとを懐かしみ大切にすることを培う。

①取組の概要

■活動を通して、ふるさとの象徴である高津川と地域の大人との出会いを積み重ね、年齢に応じたねらいや役割を持ち、立場を変え、見方や捉え方、考えや思いを深めながら、地域の中に住む中学生の自分としての在り方を考える。

《取組の流れ》

- (1) 保育園（神田、横田、若葉、梅賀山）年長、養護学校…鮎を夢中で追いかける
- (2) 西益田小学校4年生…鮎について学び、体験を通してさらに学びを深める
- (3-1) 横田中学校3年生…どのように活動運営に携わるかのアイデアを出し合う
- (3-2) 横田中学校3年生…地域の大人との運営協議をおこなう
- (3-3) 横田中学校3年生…園児や小学生たちをサポートしながら、地域の方と一緒に活動を運営する

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 多様な「ひと」の巻き込み…4保育園（所）、つろうて子育て協議会の方々、高津川漁協 まちづくりの会、豊田・西益田公民館
- 公民館との連携協働…○中学生の活動の運営については、公民館主事がアイデアを募り、大人との協議をコーディネートして決定していくことが、中学生の主体性を引き出している。
○これまでの保小中養と地域による「鮎体験交流」の振り返り会は、運営した大人だけでおこなってきた。今年度は週休日に、児童や生徒も交えて笑顔のあふれる温かい雰囲気の中で、活動を振り返ることができた（教育課程外）。体験活動時と同じように、参加した中学生が積極的に振り返り会の運営をおこなった。

③児童・生徒に見られた変容

- 特に、ひととの出会いによって変化した点を中心に
- 日常的に公民館に立ち寄り、「何か僕たちにもできることがあれば声かけてください」と伝え、地域活動に積極的に出かける中学生の姿が見られる。
- 中学校の教員に対してはもちろん、地域の大人に対しても自分（自分たち）の意見やアイデアを伝える等、様々な場面において「学び」に向かう主体性の高まりを感じられる。
- 「地域での活動は自分たちを鍛える場。そこに背中を押してもらえたら参加した中学生は力を伸ばす。そのメンバーが中心になり学校はさらに元気になる。そんな学校が地域をさらに元気にできると思う。だから僕たちに活躍の場を与えてほしい。（生徒会長談）」と、中学校2年生の生徒会執行部を中心に有志のメンバーが地域の「まちづくり部会」の大人と対話を進めている。
- 地域課題探究を3学期におこなった西益田小6年生と中学2年生全員が、中学校体験入学の日に対話の場を持ち、互いの願いや思いを共有する場を創った。



横田中生徒会と豊田・西益田公民館長（地域の大人5名）との対話の場



地域活動にて、自分たちのアイデアや特技を生かして主体的に取り組む中学生

特色あるふるさと教育事例

学校名	津和野町立津和野小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5年	総合的な学習の時間	考えよう！津和野の未来	地域住民と活動や対話を通して、ふるさと津和野を見つめ直したり、様々な課題を解決していく方法などについて共に考えたりする。

① 取組の概要

【課題の設定】

津和野町役場農林課職員をゲストティーチャーとした我が国の林業の現状や自伐型林業について学ぶ授業、ヤモリーズ（地域おこし協力隊林業チーム）との間伐伐採体験・交流座談会を切り口として津和野町が直面している人口減少・少子高齢化問題などの現状を自分事としてとらえる。

【情報の収集】

公民館長、教育委員、地元の伝統文化を守る活動をしている方、Iターン起業者など、様々な思いを持って津和野町で生活している地域住民（6名）をゲストティーチャーとしたパネルディスカッションやグループ協議など行う。その中で津和野町の現状やゲストティーチャーの津和野に対する思い、地域住民としての願いなどの情報を収集したり、これから先の津和野の在り方についてのビジョンについて語り合ったりする。

【整理・分析】

学んだことを作文や新聞などにまとめて整理・分析し、津和野の現状や未来の津和野はどのようにあるべきか、自分にできることは何かなどについて自分の考えを持つ。

【まとめ・表現】

津和野っ子フェスタ（学習発表会）の創作劇「考えよう！津和野の未来」に向けて、これまでの学習をもとに津和野の未来を考えるシナリオを作成する。その後パート別によるセリフ作りやパート練習、実行委員を中心とした全体練習などを行い、劇を通して児童・保護者・地域住民に学んだ成果を発表する。



② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・単元構想の段階から町教委の教育魅力化コーディネーターと綿密に連携し、単元のねらいや探究課題、授業者の願いなどを伝え、授業にふさわしい地域人材をゲストティーチャーとして紹介してもらった。そのためゲストティーチャーを招いた当日の授業も授業者が意図した展開となり、児童にとって貴重な学びの時間となった。
- ・人口減少や少子高齢化の問題など、大人でも解決が難しい現代社会の重要な課題を地域住民と共に真剣に考えることで、児童の地域住民の一員としての意識が高まり、ふるさとへの愛情も深まるように工夫した。

③ 児童・生徒に見られた変容（身につけさせたい力について）

- ・地域に住む様々な魅力ある大人との出会いや対話を通して、ふるさと津和野のよさを再発見したり、大人も子どもも一体となってふるさとをさらによくしていこうとする思いを強く持ったりすることができた。
- ・学んだことを創作劇にして大人数の前で発表することで、保護者や地域住民、他学年児童などからたくさんの肯定的な感想をもらうことができた。自分たちの学んだ成果が多くの人に伝わり、ふるさとに対する意識を高めたことにつながったという実感を持つことができた。
- ・学校生活以外の場でも地域社会の中でゲストティーチャーと出会って声をかけ合うなどの交流が続いており、学校での学びが地域社会での生活に継続してつながっている。
- ・県学力調査より「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という項目に対する肯定的回答が県平均を上回っている。ふるさと教育で身につけさせたい力（ふるさとの「ひと・もの・こと」について自分なりの考えを持ち、自分との関わりを考えながら行動できる）へつながる基礎となる気持ちの高まりが見られる。

特色あるふるさと教育事例

学校名	津和野町立日原中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習	「ふるさとを知る」	ふるさとの良さや課題・現状を知り、「町づくり」「町おこし」という視点で、今の自分たちに何ができるかを考え、行動する。

① 取組の概要

○1 学期

- ・「町づくり」「町おこし」とは何か、具体的にどんなことをすることなのかを考え、「消滅可能都市」「限界集落」などについて学ぶ。
- ・「町のインフルエンサーに話を聞こう！」と題して、町内で「町づくり」「町おこし」に尽力していらっしゃる方々に「どんなことをしていらっしゃるのか」「町に対してどんな思いをもっていらっしゃるのか」などのお話を聞く。

○2 学期

- ・1学期に学んだこと、お聞きした話などを参考に、興味・関心のある地域とテーマを選び、ふるさとを巡る。
- ・「ふるさと巡り」で見つけたふるさとの現状や課題、そして「町づくり」「町おこし」のために今の自分たちに何ができるかを考え、文化祭で発表する。



② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）に せまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・「町づくり」「町おこし」に尽力していらっしゃる方々のお話を直接聞くことで、地域の課題や現状を身近に感じられるようにし、さらに「町づくり」「町おこし」への興味・関心を高める。
- ・自分の興味・関心のある地域とテーマを選び、「ふるさと巡り」をすることで、地域の課題や現状を自分のこととして考え、「町づくり」「町おこし」に意欲をもって取り組めるようにする。
- ・「ふるさと巡り」で見つけたふるさとの現状や課題、「町づくり」「町おこし」のために今の自分に何ができるか考えたことなどを文化祭で発表し、今後の具体的な行動に繋げる。

③ 児童・生徒に見られた変容（身につけさせたい力について）

「ふるさと巡り」で町の人の声を聞いた生徒が、「町のために総合学習の取組を津和野町の広報に載せたら」というアイデアを出し、実現するなど、総合的な学習を通して現状を肌で感じ、自分たちに何ができるのか、よく考えていた。

2年生では、今年度学んだことをもとに、学習範囲をふるさとの外に広げ、他地域とふるさとを比較することで、さらにふるさとへの思いや考えを深めていく活動につなげていきたい。また、この活動を「町づくり」「町おこし」の一環として位置づけ、生徒に地域に貢献したという達成感を味わわせ、地域の一員としての自覚と責任を育てたい。

県学力調査より「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という項目に対する肯定的回答が県平均を上回っている。ふるさと教育で身につけさせたい力（ふるさとの「ひと・もの・こと」について理解し、地域の人に働きかけることができる）へつながる高まりが見られる。

特色あるふるさと教育事例

学校名	吉賀町立 朝倉小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5・6	総合	守ろう！生かそう！吉賀の森林	ふるさとに愛着をもち、貢献する意欲を育む。

① 取組の概要

森林の学習の導入で学校の近くの山を散策し、生息する植物や森林の様子についての学習を行い、森林に関わる様々な体験活動を行った。体験を通し、自分たちで見つけた課題について解決方法を考え、学習発表会に合わせて地域の方に発信した。ふるさと教育の目標を達成するため、地域の方々や産業課の方々と協働して行い、これらの活動を充実させた。

② ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

○森林を知る（現状を把握し、課題を見つける）

まずは、身近な山の中の様子を知り興味関心をもつために、山に詳しい地域の方をガイドとして一緒に学校の近くの山の散策を行い、植物の名前や特徴など様々なことを教えてもらった。その後、山について考える動機づけを行うために、産業課の人に来てもらい、吉賀町の森林の現状について話してもらった。その際には、課題を焦点化することで児童が取りかかりやすくするために何度も打ち合わせを行い、「竹害」にスポットを当てた講義をしてもらった。その後、地域の方を講師として間伐体験を行い、知識で得たことを実際に体験することで理解を深めた。また、間伐した竹の活用方法を教えてもらい、児童の課題把握への流れを作った。

○森林を楽しむ（森林を身近に感じる。課題解決のヒントを得る）

森林についていろいろなことを知った後、再び近くの山を散策することでさらに森林を身近に感じるができるように仕掛けた。また、地域の方と間伐した竹を利用して竹ぼうきやソーメン流しのといや箸を作ったり、スモークウッドを使ったベーコン作りをしたりすることで、間伐した木の活用方法について課題解決のヒントを得るとともに、地域の方の思いを知る場を設けた。

○まとめて、発信する

学習したことをまとめて振り返って発信するプロセスを通すことで、身近な森林に対してより主体的に自分の考えや思いをもてるようにした。

③ 児童・生徒に見られた変容

吉賀町の森林についての現状を全く知らなかった児童が、森林を知る、楽しむ活動を通して、森林を守るための方法を意欲的に考えていく姿が見られた。特に間伐体験によって、木を切ることや管理していくことの大変さを知り、今後未来に残していくためにどうしたらよいかという課題や願いを持つことができた。また、体験や課題から、自分たちのできることを考え、学習発表会の場で発信していこうとするまでになった。地域の方と森林についての課題を解決していこう、また、自分たちが住む町の森林について守り、受けついでいこうとする意欲を感じるようになった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	吉賀町立 吉賀中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3年	総合的な学習の時間	森林学習	ふるさと吉賀町の森林の現状を知るとともに、生活の中で森林が果たしている役割について考える。

① 取組の概要

- ・益田市内にある(株)伸和産業の方の講話を通して、日本国内全体、島根県、吉賀町の「林業」の現状、課題について深く学ぶ。
- ・林業の果たす役割について学ぶ。
- ・実際の作業現場（下高尻三嶋神社入口周辺）を見学し、吉賀町の森林の現状を知るとともに、生活の中で森林が果たしている役割について再認識し、これからの生活で自分たちができることを考え、実践する意欲を育てる。
- ・樹木選定の体験活動を通して、樹木の種類やその手入れの方法について知り、森林が身近なものであり、大切にしていこうとする気持ちを育てる。

② ふるさと教育の視点にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・授業プログラムは、昨年までの実践例と吉賀町役場産業課の齋藤慎吾さん、永見貴一さんのアドバイスを参考にして作成した。
- ・伸和産業株式会社企画部長・青山静佳さんに依頼し、豊富な経験・資料をもとに、日本国内、島根県、吉賀町における林業の現状や課題について懇切丁寧な説明、解説をしていただいた。
- ・林業の現状を知ったあと、実際の作業現場（下高尻三嶋神社入口周辺）に自転車で移動。大型機械を使っただがかりな作業現場を見学。見学後は、実際の作業を体験させてもらった。
- ・作業現場で働く作業員の方々から、林業の仕事全般について説明を聞く。また、なぜ林業の仕事を選んだのか、お話を聞いた。
- ・午後は、薪割り体験を行う。



③ 児童・生徒に見られた変容

- ・学習を通して「林業」に関する知識・興味・関心を深めることができた。「機械化」が進む林業の現状に生徒たちは皆驚かされた。また、地球温暖化などの環境保護についても関心を深めることができた。
- ・実際の作業現場を見学したことで、職業としての「林業」の魅力や大変さを知ることができた。更には、自分自身を見つめ直し、将来の職業選択について考える良い機会となった。

令和元年度 ふるさと教育推進事業

隠岐教育事務所管内

特色あるふるさと教育事例

学校名	海士町立海士小学校・福井小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6	社会科・総合的な学習の時間	「海士の町づくりを考えよう！～子ども議会に向けて～」	地域課題解決型学習を通じたふるさとへの愛着の醸成

①取組の概要

- これまでのふるさと教育で学んだことやふだんの生活の中から町づくりを視点とした課題をとらえ、解決に向けた提案を考えていく。
- 行政関係者、事業従事者などから専門的な意見を聞くとともに、地域住民の意識等も調査しながら地域の課題を解決していく視点で提案づくりを行っていく。
- 考えた提案を子ども議会で発表し、町長をはじめ行政関係者、住民に広げていく。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・社会科「みんなの願いを実現する政治」の議会の学習を生かしながら町づくりの視点でこれまでのふるさと教育での学習内容を見つめ、町内の課題発見・課題解決へとつなげていく。
- ・自校の校区を中心に住民への調査活動を行っていく。
- ・行政関係者、町民、高校生の助言を受けながら学習の方法を考えていく。

③児童・生徒に見られた変容

《児童》

- ・町民の意見を意識しながら自分の考えをまとめ、町づくりの提案を作成することができた。
- ・多くの人とのかかわりの中で、学習に協力していただいていることに感謝の気持ちをもって活動を進めていくことができた。

《学校》

- ・子どもの探究活動に複数教員でかかわるようにして、個に応じたサポートをすることができた。
- ・子ども議会をもとにふるさとキャリア教育が小中学校でどのようにあればよいのかを問い直す機会となった。

《地域》

- ・議員さんとの合同学習は議長さんの説明だけでなく、全議員と意見交換を行う学習に発展できたことがよかった。
- ・多様な人材を交流学習にかかわらせることで、子どもの学びに興味を持つ若い世代の意見が聞かれた。



(合同学習で町づくりへの思いを語る町議員)



(子ども達の提案に対して答弁する町長)

特色あるふるさと教育事例

学校名	海士町立海士中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2 学年	総合的な学習の時間	海士町に若い観光客を増やそう	学習を通じた、ふるさとへの愛着や誇りの醸成

① 取組の概要

○海士の魅力を島外の人に伝えることを通して、
ふるさとの良さを改めて感じ、愛する生徒を育てる

② ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイントや工夫

- ・修学旅行で、島の魅力を大学生にプレゼンする場を学習過程に位置付け、アウトプットとして設定したことが活動への動機付けにつながった。
- ・観光協会の方に来校いただき、海士町の観光の現状をお話いただいた。そのなかで「観光客数が減少している」「若年層の観光客が少ない」という生きた問題から【魅力的なPRをして大学生を島に呼び込む】というミッション（探究課題）を設定した。
- ・聴き手を意識したプレゼンをするため、島内に住む大学生(公営塾へのインターン生)を招き、対話をとおしてその年代の若者がどのようなことを考え生活しているのかを探った。また「よそ者×若者」目線で感じる島の魅力を語ってもらうことで、地域を客観的に捉える視点を養った。

③ 児童・生徒に見られた変容

- ・プレゼンを聞いていただいた大学生との関わりから、他地域に住む人からの海士町の見え方を肌で感じ、地域肯定感が育まれた。
- ・テーマに基づいた3グループに分かれたプロジェクト式の活動にしたことで、計画を立てる、役割分担して実行するなど、協働して物事に取り組む力が身についた。



(観光協会の方の講義)



(地域の農家さんへのインタビュー)



(大学でのプレゼン)

特色あるふるさと教育事例

学校名	西ノ島町立西ノ島小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	社会	「郷土の発展につくす」	ふるさと西ノ島の歴史や人物を調べ、発表する活動を通して、ふるさとに誇りや愛着を持つ児童を育成する。

①取組の概要

焼火神社の神主を務める松浦道仁さんをお招きし、隠岐航路開拓の歴史や松浦斌氏の功績に対する思いについてお話をしていただいた。

②ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- ・様々な郷土資料を活用して松浦斌氏に関する学習を進めてきたが、話を聞く中で新しく知ることや改めて学ぶことを、学習のまとめにいかす。

- ・学習の題材として各学校が松浦斌氏を取り上げている。しかし、子孫にあたる方のお話を実際に聞くことができる。資料も大切だが、人々の思い(生の声)を聴くことが大切だと分かる。

③児童・生徒に見られた変容

- ・必要となる情報を質問したりさらに資料を探したりと、よりよい発表となるように児童が進んで学習に取り組んだ。

- ・松浦さんの話を聞くことで郷土の偉人に対する誇りや畏敬の念を深めた。また、西ノ島のために尽力しておられる他の人についても調べてみたいなど学習意欲が高まった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	西ノ島町村立西ノ島中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全学年	総合的な学習の時間	ふるさとと演劇	演劇活動を通して地域の歴史、文化にふれることで、ふるさとへの愛着や誇りの醸成を図る。

①取組の概要

本校の演劇は、本年で13年目を迎え、地域の歴史や文化を知ることが目的として、ふるさと西ノ島の史実に基づいた台本を教員が作成し、全校を縦割り班に分けて20時間の時間設定で取り組んでいる。今回は、「船引運河開削の実現に向け尽力した黒木村村長の話」と「西ノ島町の伝統行事の一つである精霊船作り」を題材とし、全校を縦割り2班に分けて活動した。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

○史実に基づいた脚本の作成

演劇の脚本は、生徒がふるさとへの愛着を持てるよう、市販されているものではなく、本町の史実にもとづいて教員が作成したものである。

○地域の方から史実を学ぶ学習活動

生徒は、演劇に取り組むにあたって、長年精霊船づくりを中学生に指導されている地域の方を学校に招き、精霊船づくりを傳承することへの思いをうかがった。また、当時の漁師の苦労や船引運河開削への島民の思いを考えるために、非動力船を所有する地域の方にご協力いただき、海上での生徒への操船方法の講習や操船体験を行った。

○公民館との連携

学習に必要な人材を紹介してもらい、お話しをうかがうことができた。また、照明や音響などの舞台技術に関するサポートをしていただいた。

③児童・生徒に見られた変容

この学習で得た情報を生徒と共有しながら演劇の練習に取り組むことで、生徒の地域への理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りを育てていくことができた。特に、当時の時代背景や島民の反対にあいながらも将来の西ノ島のために熱い思いを持って船引運河開削の実現に尽力した先人の強い意志、地域の伝統行事を守るために将来の地域の担い手として自分たちは何をしていかなければならないのかを考えることで、ふるさとを誇りに思いながら演劇で表現することができた。生徒の感想からも、先人の生き方について感銘を受けたことや、伝統芸能の傳承の意義について多くの人に知ってほしいなど、ふるさとへの愛着が深まった様子がうかがわれた。

【事前学習の様子】



【演劇当日の様子】



特色あるふるさと教育事例

学校名	知夫村立知夫小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全校	行事	ふるさと学習発表会	ふるさと学習で体験したり、調べたりすることで、ふるさとへの関心を持ち、地域へ貢献しようとする気持ちを育てる。

①取組の概要

- 低学年：「知夫のよさに気づく・知る」をテーマに体験活動を行い、学んだことを全員で地域の方・保護者に発表する。（生活科、行事）
- 中学年：「知夫についてしっかり学ぶ（知夫の学びを広げる）」をテーマに調べ学習を行い学んだことをグループで地域の方・保護者に発表する。（総合、社会、行事）
- 高学年：「知夫についてしっかり学ぶ（知夫の学びを深める）」をテーマに調べ学習を行い課題解決の提案等を個別又はペアで地域の方・保護者に発表する。（総合、国語、行事）

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 低学年：郡地区の「一の宮会」に参加し、お年寄りと話をしたり、一緒に遊んだりする。
- 中学年：隠岐ジオパークについて話を聞き、実際に赤ハゲ山で調査活動をする。
- 高学年：知夫の水産業や福祉に関心を持ち、関係者に話を聞き、個別の課題を持ってふるさとを調べる。

③児童・生徒に見られた変容

- 発達段階に応じた発表内容・発表形態で行い、参加者からも大変好評で、児童の意欲の向上につながった。
- ふるさと教育の全体計画を見直し体験活動や追究活動を通して様々な人との交流することで、コミュニケーション力の向上が図られた。
- 国語科の学習を地域住民との交流の際に活かそうとするしかけによって、児童の国語科への意欲が高まった。
- 講師依頼や取材活動などに大勢の地域の方々が協力をしてくださり、学校と地域のつながりが一層深まり、児童も積極的に地域行事に参加するようになった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	知夫村立知夫中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	総合的な学習の時間	「知夫の今を知り、未来を考えよう」	子どもたちに地域社会の一員としての自覚を持たせるとともに、ふるさとへの貢献意欲を育む。

①取組の概要

「子育て支援」、「高齢者福祉」、「水産」、「観光」に関するテーマから、生徒一人一人が課題を設定し、調査活動を通して学んだことを提案書としてまとめ、知夫未来子ども議会で提案発表を行った。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 4つのテーマの中から、生徒一人一人が知夫の未来をより良くするための具体的な課題を持つこと。
- 生徒1～2人に対して一人の教員が対応し、マンツーマンのコミュニケーションを通して提案についての考えを深めていくこと。
- 知夫未来子ども議会で提案発表を行うことで、地域の行政への関心を深めるとともに、社会参画への態度や意欲を培うこと。

③児童・生徒に見られた変容

生徒の学習の振り返り（感想）には次のような内容があり、自分の行動力の高まりやふるさと知夫を愛する心の深まりを実感している生徒が増えたことがうかがえた。

○学習を通して力がついたこと

- ・自分で考え行動する力
- ・見通しを持って学習する力
- ・人に聞く力
- ・情報を整理する力
- ・原稿を書く力
- ・人に伝える力

○知夫に対する思いが変わったこと

- ・地域の人とたくさん話して知夫のことを知り、知夫の未来に関心を持つきっかけになった。
- ・地域の課題に対する解決策を考えることを通して、知夫への興味がより深まったように感じた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	隠岐の島町立 西郷小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	隠岐の島の良いところを見つけよう	地域の文化について関心や疑問を持ち、それを解決するという学習において、地域の教育資源を活用する。

①取組の概要

地域の伝統行事である「御霊会」「民謡」「古典相撲」「牛突き」「いぐり凧」について関心や疑問を持ち、課題を解決する方法を子どもたちが考えた。地域の文化に詳しい人に話を聞いたり、文化を体験したりする中で、わかったこと、思ったことを整理した。学習したことは模造紙などにまとめ、学校の廊下などに掲示し、地域・保護者に向けて発信した。



②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・地域の文化の一部を紹介し、児童に疑問を持たせて、そこから学習課題を作る。
- ・実際にゲストティーチャーとして地域の文化に詳しい方に来ていただき、話を聞く。（高齢のゲストティーチャーだけでなく、若い世代の継承者にも来てもらう。）
- ・地域の文化の一つである「いぐり凧」を児童が制作。凧揚げを体験する。
- ・地域の文化である民謡を聞く。踊りを教えてもらう。（実感を伴った学び。）
- ・牛突き大会に出場する牛を見学に行き、その大きさや世話の大変さを実感する。

③児童・生徒に見られた変容

- ・地域の文化をたくさんの方が保存、継承していることを知り、隠岐という地域をさらに好きになったという児童が多かった。
- ・隠岐の文化を守る人々の中には、小学生の時からその文化にかかわり、大人と一緒に行事に参加してきた人も多い。ゲストティーチャーとして若い世代の方にも来て話をいただいた。それにより、子どもたちは、どのようにしたら文化を守っていけるか、自分たちにできることは何か、ということを考えるようになった。（当事者意識を高めることができた。）

特色あるふるさと教育事例

学校名	隠岐の島町立 都万小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5年 6年	総合的な 学習の時間	米作り体験をしよう (田植え・稲刈り・もちつき)	米作りの工夫や苦勞を知り、米を大切に食べようとする気持ちを育む。 ふるさとの産業である米作りについて、体験を実際にするを通して学び、自分たちの住む地域への関心を深め、愛情を育てる。

① 取組の概要

- ・地域の営農の方々に教えて頂きながら手作業で田植えや稲刈りを行った。(5月、10月)
- ・都万っ子祭りでお世話になった方々を招待して、収穫したもち米で杵と臼でもちつきを行う。そのあと、学習の成果を見てもらい、試食会をして地域の方々との交流を深めた。(11月)

② ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- ・田植えから稲刈りまでの体験を行うことで、米作りの大切さや大変さを味わうようにした。特に田植え機にも載せていただく体験することで、手植えと田植え機を使つての効率の違いを感じ取り、手植えの大変さ、昔の人の苦勞を実感できるようにした。
- ・もちつきでは、お世話になった方々にもたくさん来ていただき、一緒に杵と臼でもちつきをして収穫を喜んだ。また、収穫に感謝し、試食して楽しく交流した。

③ 児童・生徒に見られた変容

- ・6年生は、5年生の時に経験をしているので、主体的に見通しをもって活動に取り組み、5年生をリードしていた。
- ・この活動を通しながら、5年生はふるさとの米作り、6年生はふるさとの産業や歴史について学習を深めた。
- ・都万の豊かな自然にふれ、都万地区への愛着を深めた。



田植え



稲刈り



餅つき

特色あるふるさと教育事例

学校名	隠岐の島町立 西郷中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習の時間	中学生議会	提言づくりの活動を通して、自分が住む町の現状や課題について理解し、地域のまちづくりに参画しようとする態度を養うことができる。

①取組の概要

本校の総合的な学習の時間のテーマである「ふるさと学習」の集大成の学習として位置づけ、中学生議会の提言づくりを中心に活動を行った。提言づくりのために、隠岐の様々な分野に携わる方々の講話や街角インタビュー、アンケートなどから、町の現状や課題を把握し、提言づくりの材料とした。集めた情報から、隠岐を活性化するためにできることをグループで考え、中学生議会で発表を行った。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 提言づくりに向けて、隠岐の様々な分野の方々からふるさとに対する思いを聞き、生徒がその思いを受け止めて課題解決に取り組んでいけるように授業を計画した。
- 隠岐ジオサイトツアーを1年時から毎年行い、3年間で可能な限り多くの場所を巡り、ふるさとに関心をもったり、理解できたりするよう計画した。
- 例年がない分野（漁業、医療など）からの提言を考えた。

③児童・生徒に見られた変容

- 提言づくりの活動の中で、町や他の地域の制作に関心をもち、積極的に調べようとする生徒たちの姿が多く見られた。議会を終えた後の生徒の感想からも、意欲的なコメントが見られた。
- 議会の本番では、提言に対し、町長自ら真剣に答弁をさせていただくなど、地域の一員として丁寧に接していただいた。議会後、生徒たちが目上の人に対して、丁寧な言葉遣いができるようになるなど、中学生議会の取組が、大人としてのふるまい方を学ぶ良い機会となった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	隠岐の島市町立 都万中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合	隠岐ジオパーク研究	郷土学習

①取組の概要

- ・牛突きについての学習やジオパークバスツアー、夏休みのふるさとキャンプなどで学習・体験したことをもとに、1人1つテーマを決めて調べ学習を行い、地域の人や保護者、全校生徒の前でプレゼン資料を使った発表を行う。

②ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・ふるさと隠岐を自分の目で見て回ったり、地域の人と一緒に体験したりすることを通して「自分が感じた隠岐」をベースに調べ学習を進める。
- ・それぞれの分野に詳しい隠岐の人材に話を聞く機会を多く設ける。

③児童・生徒に見られた変容

- ・興味のあることや疑問に思ったことをテーマに調べたが、知らないことがたくさんあり、もっと調べてみたいと思った、または発表後に実際に調べたという声があった。
- ・発表会では、全校生徒・保護者・地域の人前で発表をして、初めて知ることがたくさんあったという感想が多く出たが、隠岐について伝える立場になったことで、達成感と満足感を得ていた。
- ・自分で興味や疑問があつて調べたこと以外にも、他の生徒が調べているテーマについても関心を持ち、隠岐のことについて自分たちがもっと知り、島内外に発信していきたいという意欲を見せた。
- ・ふるさと隠岐を題材に、パワーポイントでの発表を行ったが、生徒自身がICTについて学ぶ良い機会にもなった。
- ・調べ学習を行ううちに、情報の信憑性や出典等についても考えるようになった。
- ・情報を交換し合うなど、協力して課題に取り組んでいた。

